

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番（三木俊明君）

6番三木です。まず冒頭、今回の三枝邦彦前町長の入札情報漏洩事件に関し、町長は議会に対し施政方針でふれてはおりますが、議会は町民に対し、早急に行政に対する信頼回復と再発防止策を発信するよう申し入れたものでございます。それが、いまだ実践されていないことに対し憤りを感じております。

この事件に関しましては、この後、同僚議員が質問いたしますので、真摯にお答えしていただきたいと思っております。

それでは、通告書に従いまして3点質問を行います。

まず1点目、やすらぎプラザの包括的な社会福祉活動への運用についてであります。やすらぎプラザは、設置および管理に関する条例にあるように、土庄町の保健福祉行政の拠点として、住民の健康増進と社会福祉などの総合的な相談に応じるとともに、保健・福祉・医療サービスを提供することを目的として建てられたものであります。

主な目的は保健事業に関するものとは理解しておりますが、昨年来、総合福祉会館の商工会への貸し出しで社会福祉団体は活動の拠点を失い、旧土庄高校3号館の工事の延長により、いまだボランティアの方々には不便を強いられております。

そこで、やすらぎプラザを今まで以上に、幅広く社会福祉活動団体に利用していただけたらどうかと考えますので、何点か質問をします。

まず、令和3年度は大規模な改修がありましたので、令和元年度、2年度の各種団体の利用実績をお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 奥村忠君。

○健康福祉課長（奥村忠君）

三木議員のご質問にお答えいたします。

やすらぎプラザにつきましては、正式名称は「土庄町国保保健福祉総合施設」と言いまして、施設内に相談室や健診室、栄養指導実習室等を配置し、健康増進事業や予防接種事業、母子保健事業、介護の地域支援事業としての運動器機能向上教室や認知症サポーター養成事業、介護予防サポーター養成事業、ホットハートサポーター活動支援、あったかとのしょう町づくりの会の開催等、年間200回を超える事業を実施をいたしておりますが、平成13年4月に開設されて以降これまで、施設管理や補助金等の問題もあり、役場本庁舎と同様、一般の個人または団体への会議室等の貸し出しは行っておりません。以上です。

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番 (三木俊明君)

立派な施設でありながら、施設の設置および管理条例の縛りの中で、該当団体以外は利用できないという実態があるということが分かりました。

では2点目、やすらぎプラザ建設当時から社会福祉活動の拠点は総合福祉会館、保健福祉活動の拠点はやすらぎプラザとの町としての明確な活動理念があったように思います。今、わが町は社会福祉活動の拠点を失い、新たな拠点作りも進まない中、社会福祉団体のやすらぎプラザ利用について、担当課としてはどのような認識を持っているか伺います。

○議長 (高橋正博君)

健康福祉課長 奥村忠君。

○健康福祉課長 (奥村忠君)

やすらぎプラザにつきましては、保健事業、老人介護支援、訪問介護、訪問入浴の4つの業務につきまして、保健・福祉・医療サービスを一体的に提供する事業を実施する施設といたしまして、年間約1400万円の特別調整交付金をいただき、施設の維持費等に充てております。

利用を希望される団体の活動内容がやすらぎプラザの設置目的に合致し、やすらぎプラザで実施している事業の一環として行政と協働で実施できると認められる場合には、利用していただくことも可能であろうと考えております。

○議長 (高橋正博君)

6番 三木俊明君。

○6番 (三木俊明君)

利用を希望する団体の活動内容が、やすらぎプラザの設置目的に合致し、となりますと、設置および管理に関する条例第3条の土庄町の保健福祉行政の拠点とし、住民の健康増進と社会福祉などの総合的な相談に応じるとともに、保健・福祉・医療サービスを提供することを目的とするに、合致すると思われまますので、今後は柔軟な対応をしていただきたいと思います。

次に3点目、具体的な利用状況についてお聞きいたします。

婦人会、自治会等が行っている配食サービスですが、土庄・湊崎地区の活動は、今までどおり総合福祉会館で実施していただいております。しかしながら、総合福祉会館にはエレベーターもなく、軽運動室、1階和室は商工会所管となり、ボランティアの方々は、階段を上り下りして給食を運んでおり、たいへんご苦勞をされております。この配食サービスにも、その団体が利用しやすくしてはどうかと思います。やすらぎプラザはエレベーターもあり、栄養指導実習室は設備も充実しております。令和元年度、2年度の調理実習室の利用状況と利用申し込みの仕組みについて回答を願います。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 奥村忠君。

○健康福祉課長（奥村忠君）

やすらぎプラザの栄養指導実習室につきましては、コロナ禍前ですと年間に40日から50日、食生活改善推進協議会関係の事業と健康づくり事業、健康診査の会場の一部として使用しております。また、2階で乳幼児健診を行う際には健診の妨げにならないよう3階の使用は控えることといたしております。

議員ご指摘の婦人会・自治会等が行う配食サービスにやすらぎプラザの栄養指導実習室をご利用いただくことにつきましては、食生活改善や健康づくり事業、地域支援事業等の一環として健康福祉課の職員も参加させていただき実施するのであれば特に問題はないと思われまますので、ご相談くだされば対応させていただきます。

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番（三木俊明君）

ありがとうございます。前向きな回答をいただきました。現在、各地区のボランティアの皆さんは、婦人会・食改・老人会等、複数の団体に所属して町の福祉の増進のため、活動をしていただいております。これに、健康福祉課職員の皆さんが、行政の立場として参加していただけたなら、現場の苦勞も分かり、官民一体となった福祉活動が展開していけるものと思っておりますので、よろしくお願いたします。

最後に、岡野町長に「やすらぎプラザの包括的利用について」の認識をお伺いたします。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

三木議員のご質問にお答えいたします。

やすらぎプラザの包括的な社会活動への運用についてでございますが、やすらぎプラザの利用目的については、土庄町保健福祉総合施設の設置および管理に関する条例で定められております。

また、健康福祉課長の説明にもあったとおり、保健・福祉・医療サービスを一体的に提供する事業の実施の利用が求められ、年間約1400万円の特別調整交付金を維持費の一部として活用し運営している施設と認識しております。

今後の利活用につきましては、施設の利用目的に沿ったかたちで、行政と各団体が一緒にできるようになることがあれば、相乗効果も期待することもありますので、検討していきたいと思っておりますので、活動内容などを担当課に

相談いただければと思います。

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番（三木俊明君）

本来わが町は、社会福祉活動の拠点は総合福祉会館、保健福祉活動の拠点はやすらぎプラザ、生涯学習活動の拠点は中央公民館と、町としての明確な理念に基づいて行政運営をまいりました。今、その理念が崩れています。町民も現場の職員も戸惑っております。町長としてその崩れた行政理念を修正し、今の時代にあった施設運用ならびに拠点づくりをしていただくよう強く要望いたしますのでこの質問を終わります。

次の質問に移ります。第7次総合計画策定については、昨年6月議会で、私の「急激な少子高齢化、財政の逼迫、コロナ禍、激動する社会生活の中、真に町の未来を町民とともに考えるべき」との質問に対し、執行部のほうより、国の必須計画ではなくなり、12月には町長選挙もあり、策定は令和4年1月以降に判断したいとの答弁でございました。新年度予算を見ると、第7次総合計画策定予算が計上されておりますので、何点か伺います。

まず、今回の計画策定にあたって、担当課はどのような認識のもとで策定するのか伺います。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

三木議員のご質問にお答えいたします。

今回の策定にあたっての認識でございますが、昨年6月議会において、お答えいたしましたとおり、総合計画は地方自治法の改正によりまして、「基本構想」の策定義務が廃止された中で、現行の第6次総合計画は、その重要性を鑑み、策定されております。第7次総合計画においても、第6次同様、町の最上位計画としての位置づけを引き継ぎ、まちづくりの基本理念や将来像を示すものとして、今後10年間の計画期間を想定し、策定したいと考えております。

日本全体で突入しております人口減少時代において、地方の重要性が再認識され、地方創生による地域活性化が求められている中で、新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞など、目まぐるしく変化する社会情勢を背景に、効果的な施策を展開していくためにも、計画のあり方について改めて検討する必要があると認識いたしております。

また、令和2年3月に策定した中長期的なまちづくりの指針であります土庄町グランドデザインの方向性を踏まえつつ、1月の臨時議会での町長の所信表明にもございました、安心して暮らし、楽しく暮らせる土庄町を創るための計画

を目指し、第 6 次総合計画にはなかった定量的な目標である数値目標や K P I（重要業績評価指数）を設定するなど、効果検証の実施や評価をより実施しやすくするための方法を検討してまいります。

○議長（高橋正博君）

6 番 三木俊明君。

○6 番（三木俊明君）

その判断をです、昨年 6 月の時点でしていただきかけたと思っております。10 年前ですが、前回の計画策定時においては 2 年計画で、パブリックコメントの募集、有識者会議を経て、計画策定を行ったと記憶しております。10 年前はコロナ禍もなく、高齢化も今ほど進んでおりませんでした。それでも 2 年間かけて、10 年先のわが町の在り方、目標を定めなければならないという、強い意識が執行部のほうにあったように思います。今、その意識が低下しているように感じて、残念であり、心配でなりません。

新年度 1 年間で計画策定となると、非常に限られた時間の中で集中的に行なわなければならなくなります。そのような状況の中でも、今まで以上に住民参画を促し、町の将来を担う若者の意見を取り入れるべきと考えておりますがいかがでしょうか。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

三木議員の再質問にお答えいたします。

策定におけます住民参画につきましては、三木議員のおっしゃるとおり、将来を担う若い世代を含めた幅広い住民参画が重要であると考えております。

土庄町総合計画策定条例の規定によりまして、地方自治法に基づく附属機関であります「土庄町振興計画審議会」を立ち上げ、そちらに諮問するほか、各方面の委員が参画しております「土庄町まち・ひと・しごと総合戦略会議」など、既存のその他、附属機関からのご意見も含め、幅広くご意見をいただきたいと考えております。

○議長（高橋正博君）

6 番 三木俊明君。

○6 番（三木俊明君）

4 月に入ってから、業者委託、パブリックコメントの募集、付属機関の立ち上げ、若者組織の編制・意見集約等、とても時間的余裕がないと感じるのが常識であります。先日、私の地元、肥土山地区の 30 代夫婦 3 組が、10 年後、20 年後に今の肥土山地区を残していくためにどうしたら良いか、相談に来られました。

農業の担い手不足、移住者の受け入れ、文化の継承等、真剣に議論をいたしました。結論は出ませんでした。最後には、地元に住む者が立ち上がらなければ何も進まない、まずは行動を起こそうということになりました。ありがたく、心強く感じました。そんな若者、現役世代、経験豊富なシルバー世代は必ずこの町におります。

事業費 988 万 2 千円、うち業者委託料 790 万 9 千円、この先 10 年間のわが町の在り方を策定する重要な計画です。岡野町長の認識を伺います。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

三木議員のご質問に対してお答えいたします。

第 7 次総合計画につきましては、土庄町の最上位計画として認識しており、策定については企画財政課長の答弁にもあったとおり、急激に変化していく社会情勢を踏まえ、効果的な施策を展開していく必要性があり、安心して楽しく暮らせる土庄町を作るための計画として、策定にあたり幅広い世代の意見を取り入れられるようなかたちで進めていきたいと思っております。

また、三木議員がおっしゃるとおりに、前回は 2 年で作られたことを 1 年でやるということは、できるだけ多くの人たちの意見を取り入れるかたちをとることと、その 10 年後の未来を見据えてというようなかたちで、若者世代の意見を取り入れなければならないと思っております。そのようなところで、議員の皆さま、また町民の皆さまにおかれましても、第 6 次計画を再度見直していただき、われわれの作っていく計画に対して、ご意見いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（高橋正博君）

6 番 三木俊明君。

○6 番（三木俊明君）

岡野町長は選挙の際、「共に考え、共に創る」を公約に掲げ、40 代・50 代の現役世代はもとより、多くの町民の支持を受けました。また、私もその支持者の一人でございます。

第 7 次総合計画策定は、それを実践する第一歩であると思えます。この計画策定が地方の権限に任されており、なおかつ、わが町の最上位計画として位置付けるなら、単年度策定ではなく、じっくり腰を据えて、幅広い意見を取り入れ、町の未来像を真剣に議論し、町長の思いを実現するためにも、2 年計画で策定する方向に転換しても良いのではないかと私は提案いたします。

大変な状況の中ではありますが、町民の皆さんは岡野町長に大きな期待を寄せております。答弁は求めませんが、執行部とともに再度協議していただくこ

とをお願いいたします。

最後の質問に移ります。各種団体への補助金の減額についてでございます。

令和4年度の一般会計予算は逼迫した財政状況の中、92億2800万円、前年度比5億6600万円、率にして5.8%の減となっております。財政状況が苦しいのは十分理解できますが、そんな中、福祉ボランティア団体や文化団体、生涯学習団体への補助金も削減されております。

令和4年度は、岡野新町長となり、わが町が一丸となって、町の再生、発展を目指さなければならない重要な1年ではないかと考えます。そんな中、持続可能な町政運営は財政面だけではなく、町民の理解・協力無くして、進めてはいけないものと考えておりますので、何点か質問をいたします。

まず初めに、予算編成方針は町長、財政担当課であると認識しておりますので、令和4年度の当初予算における各種団体補助金の削減についての、その真意と効果について考えをお伺いいたします。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

三木議員のご質問にお答えいたします。

補助金削減の真意とその効果についてでございますが、監査委員からの指摘に基づきまして、令和4年度当初予算編成の際に、目に見えて財政状況が硬直化している現状を全職員が再認識し、あらゆる財源の確保に積極的に取り組み、費用対効果を検証するとともに不用額を削減し、将来にわたり健全な行財政運営の維持確保に努めることが重要とのことから、編成するにあたっては、全体としては、7つの事項、①年間総合予算の編成、②総合計画による施策の実施、③総合戦略に係る施策の実施、④事業事務の見直し、⑤スクラップ・アンド・ビルドの徹底、⑥後年度負担の把握、⑦国および県の予算等の動向把握とその対応を念頭に置いた上で、予算編成を行いました。

その中で歳出の事項につきましてでございますが、ご質問の補助金および負担金については、必要性および効果が適正であるかどうか見直しを行うこと。補助率、負担率および対象等が適正であるかなどの再評価を行い、廃止、縮小、統合などに努めるとともに、交付先の収支状況を確認し、繰越金があるものについては、必ず見直しをすること。負担金のうち、各種団体等への補助金的性格のものについては、目的や活動効果を見直し、形式的なものについては廃止を含め検討することといたし、各担当課がこの編成方針に基づき、各種団体の事業内容等を認識、ヒアリングなどを通して検討、協議を行い、予算要求を行い、その後、査定・復活要求を経て、今回の予算案となっております。

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番 (三木俊明君)

財政担当課として丁寧ではありますが、非常に事務的な説明でありました。

行政運営面における、町民への影響、感謝の意識が感じられないのが非常に残念です。

次に、削減された福祉団体、文化団体、生涯学習団体等の団体数と削減額の合計はいくらになるか伺います。

○議長 (高橋正博君)

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長 (鳥井基史君)

三木議員の再質問にお答えいたします。

削減された福祉団体、文化団体、生涯学習団体等の団体数と削減額の合計についてでございますが、主に組織運営に対する補助に限定いたしますと、予算要求額 7013 万 8 千円で、そのうち、予算要求の査定において、繰越金が多額な団体で、かつ長期的にわたり定額補助が行われており、各担当課からの説明からも目的、活動実績にそぐわないと判断いたしました団体 17 団体について、要求額 2031 万 5 千円に対しまして、364 万 8 千円を削減いたしております。以上です。

○議長 (高橋正博君)

6番 三木俊明君。

○6番 (三木俊明君)

私が当初予算書において調べたところ、健康福祉所管のボランティアで行う福祉 2 団体については、増減はございませんでした。しかしながら、老人会全体では予算額 121 万 6 千円で、前年度に比べ 7 万 5 千円の減、住民環境課所管の花づくりの委託料は 55 万 9 千円で 7 万 6 千円の減、生涯学習課所管では、文化協会の補助金が予算額 0 円、20 万 8 千円の減、こども会補助金が同じく予算額 0 円、12 万 5 千円の減、女性団体補助金、婦人会であります。予算額 3 万円で 17 万 8 千円の減、農村歌舞伎補助金が 5 万 1 千円で 19 万 9 千円の減、スポーツ団体補助金に至っては、予算額 30 万円で 75 万 8 千円の減、これらは各地区体協 8 地区、加盟競技団体 13 団体、スポ少 11 団体で構成されております。いわば、町民全体を対象としたものになります。これを合算しますと、161 万 9 千円の減となります。

一方、観光振興面をみてみますと、瀬戸内芸術祭開催の年ではあります。予算額 7869 万 3 千円、1548 万 6 千円の増となっております。その中には、小豆島観光協会負担金が予算額 700 万円で 200 万円の増、小豆島観光戦略会議負担金が、400 万円で 100 万円の増、北部みらい補助金が 500 万円で 26 万 1 千円



の増等が含まれております。あまりにも観光振興偏重で、町民の行政参画を促がず、自主的活動の思いを蔑ろにした予算編成ではありませんか。これを知った町民はどう思うでしょうか。財政担当課はこの補助金削減について、各種団体に十分な理解が得られているか認識を伺います。時間がありませんので、簡単でお願いします。

○議長（高橋正博君）

企画財政課長 鳥井基史君。

○企画財政課長（鳥井基史君）

三木議員の再質問にお答えいたします。

各種団体に十分な理解が得られているかとの認識でございますが、冒頭にも回答させていただきましてとおり、予算編成においては、あらゆる財源の確保に積極的に取り組み、費用対効果を検証するとともに不用額を削減し、将来にわたり健全な行財政運営の維持確保に努めるということを全職員が認識した上で行っておるということでございます。その中で、各担当課が補助金交付先団体の事業内容、収支状況、繰越金等を確認し、予算要求時におきましては削減しようとする際には当然に各団体の関係者と協議等を行っているものと認識をいたしております。

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番（三木俊明君）

私は各団体の繰越金の状況までは把握しておりませんが、各団体は補助金だけで運営しているわけではございません。長年の運営の中で、会費を積み重ね、事業を行い、経費を削減して残してきた繰越金でございます。子ども会はキャンプに使用するテントを買う資金として残してきたと聞いております。また、私の所属する肥土山農村歌舞伎保存会は昨年、コロナ禍により活動ができなかったこともあり、自らの補助金の一部を返還しております。今年は、ぜひとも歌舞伎を奉納して、その後行われる瀬戸芸歌舞伎公演にも、協力していこうとしていた中の補助金削減でございます。町行政に協力する意欲を失われてしまうのは私だけでしょうか。

昔から「泣く子と地頭には勝てない」と、ことわざがあります。各団体の話を聞くと、「役場が言よるから、しゃあない」、諦めの言葉しか返ってきません。これが実情です。

最後に、この福祉団体・文化団体・生涯学習団体活動補助金の削減に関する、町長の認識をお伺いいたします。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

三木議員のご質問にお答えいたします。

予算全般では、企画財政課長の答弁のとおり、土庄町の財政が硬直化している現状を全職員が再認識し、事業の必要性や見直し、その費用対効果などを検証するとともに、町税等の徴収強化、町が保有する未利用財産の売却や貸し付けなど、あらゆる財源の確保に向けて積極的に取り組み、将来にわたり健全な行財政運営の維持確保に向けて進めてまいりました。

各種団体への補助金削減についても担当課の説明のとおり活動実績や、またコロナ禍での活動の自粛等や決算額、また 2 年度計画繰越金等をお聞きした上で、協議、検討を行い、事業を縮小するまではないものと判断し、認識しております。

今後、各団体が町と連携しながら年度途中で事業の再開、また新規の事業拡大などを目的とし、予算要求するのであれば、担当課とご相談していただきたいと思っております。

○議長（高橋正博君）

6 番 三木俊明君。

○6 番（三木俊明君）

ありがとうございます。冒頭でも言いましたが、持続可能な町政運営は財政面だけではなく、町民の理解・協力無くして進めてはいけないものと考えております。

町長に就任してすぐに三枝前町長の事件が発覚し、その対応、またその他諸問題に孤軍奮闘されているのは十二分に理解をしております。しかしながら、この予算案は三枝前町長の意向が、そのまま反映されたものとしか言いようがありません。岡野町長の魅力は、人の心を引き付けるところにあると思っております。このままの状況では町民の心が離れてしまいます。

各団体補助金の執行は 12 月以降であると認識しております。新年度になってからでも結構ですので、補助金削減ありきではなく、令和 3 年度予算を基準に、各団体の理解を得た上で、活動の実績に合わせ、補助金を交付するよう行うよう修正してはいかがでしょうか。財政が逼迫して 160 万円の財源が無いのであれば、町長含めわれわれ特別職が、まず身を切って示すべきと考えます。

私は 40 年、町職員として行政に携わってきました。今ほど行政に対する、町民の不信感が高じている状況は経験したことがありません。この状況を打破し、町民の信頼を回復し、町を再生するには、岡野町長の強いリーダーシップ、実行力が必要不可欠でございます。

「共に考え、共に創る」新年度において、岡野町長の色を打ち出し、トップリーダーとして、町行政を進めて行くことに期待をしております。

最後に、その思いがあるかないか、お聞かせください。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

全体的なことに関しましては、三木議員のおっしゃられるとおり今後ですね、見直しを図っていきたいと思っております。ただですね、その中で、各種団体と協議した中で理解が得られてないのであれば、私を含めて、これから関係を密にし、土庄町にとって必要なことをやっていただける団体と認識しながら進めていきたいと思っております。

○議長（高橋正博君）

6番 三木俊明君。

○6番（三木俊明君）

よろしく申し上げます。質問を終わります。